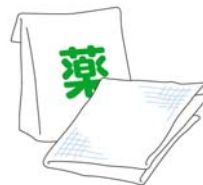


お薬のしおり



全身に作用する貼付剤について No.78 (H20.4)

東京医科大学病院 薬剤部

「^{ちようふざい}貼付剤^は（貼り薬）」と聞くと多くの人は肩こりや腰痛、打撲などに使用する「^{しつぷ}湿布」と呼ばれるものを思い浮かべるのではないのでしょうか？これらは症状のある部位に貼付して薬剤を患部に直接作用させる局所作用を目的とした貼付剤です。現在では局所作用だけでなく、薬剤を全身に作用させる貼付剤も登場しています。今回は貼付剤の中でも全身作用型の貼付剤についていくつか紹介しようと思います。

全身作用型の貼付剤は、皮膚から血中に有効成分を移行させて全身的な作用を發揮させることを目的とした貼付剤です。貼付剤は内服薬と比べて薬剤が徐々に吸収されるため、持続的な効果が期待できます。しかし皮膚から薬物が吸収されるには薬剤の性質や大きさなどが関わってくるため、薬剤によって貼付剤にするには向き不向きがあります。現在貼付剤として使用されている薬剤をいくつか挙げてみます。

〇^{けっかんかくちようざい}血管拡張剤（^{フランドル}フランドル[®]テープ、^{ニトロダーム}ニトロダーム[®]TTSなど）

硝酸イソソルビド、ニトログリセリンなど血管を拡張させる作用のある薬です。

1日1～2回の貼付で冠血管（^{かんけっかん}心臓の血管）を持続的に広げて狭心症（^{きようしんしやう}きょうしんしやう）の発作を予防します。貼付剤にすることで薬が^{たいしや}肝臓で代謝（分解）を受けにくく、持続的な効果が期待できます。

〇^{きかんしかくちようざい}気管支拡張剤（^{ホクナリン}ホクナリン[®]テープなど）

呼吸機能は早朝4時頃最も低下するため、飲み薬では作用時間の長い薬を寝る前に飲む必要がありました。しかし貼り薬の気管支拡張剤を使用することで1日1回の貼り替えで早朝の喘息発作を予防できるようになります。

〇エストロゲン製剤（^{エストラダーム}エストラダーム[®]貼付0.72mgなど）

閉経前後のエストロゲン低下が原因で発症する更年期障害や骨粗鬆症（^{こつそしょうしやう}こつそしょうしやう）に対し効果的とされているエストロゲン補充療法で使われます。この製剤は下腹部または臀部に貼ることで女性ホルモンが補充され、1枚で2日間効果が持続します。ただし全身性のホルモン剤であり、飲み薬と同じようにエストロゲン依存性腫瘍（^{けっせんそくせんしつかん}けっせんそくせんしつかん）の方や血栓塞栓疾患のある方などには使用できません。

〇ニコチン製剤（^{ニコチネル}ニコチネル[®]TTS）

喫煙時のレベルを超えない程度のニコチンを血中に補うことで、禁煙時の離断症状を軽減し禁煙を補助します。この製剤は1日1回



貼り替える製剤ですが、ニコチンを徐々に減量していき、最終的には使用を中止します。ニコチン過剰による副作用が現れることがあるので使用中は喫煙しないでください。

○麻薬性鎮痛剤（デュロテップ®パッチ）

がんの強い痛みを持続的に和らげる薬です。1回貼ると痛みを和らげる効果が3日間（約72時間）持続するように作られているので、3日毎に貼り替えてください。また、パッチを傷つけると中の薬液が漏れてしまうので、切ったり傷つけたり、傷ついたパッチを使用したりしないでください。

このような貼付剤を使用する際にいくつか守っていただきたいことがあります。まず、同じ場所に貼り続けられないようにすることです。薬剤は皮膚を通して血中に入り血流に乗って作用させたい場所に届きます。必ずしも患部に貼る必要はありません。例えば狭心症の発作予防の薬だからといって心臓の真上に貼らなければいけないということはないのです。同じ場所に貼り続けると皮膚がかぶれてしまうこともあるので貼る場所を毎回ずらしてください。貼るときは傷や湿疹がある場所は避け、皮膚のしわをのばして貼ってください。汗などの水分をしっかりとふき取ることも心がけましょう。

次に全身作用型の貼付剤は長時間貼ったままであることを前提に作られているので一般的には貼ったまま入浴しても問題ありません。だからと言って入浴時に強くこすったりしないよう注意しましょう。1日1回貼り替える薬で医師から貼り替える時間を指定されていない場合は入浴後に貼り替えるというのも1つの方法です。

また、使用済みの貼付剤でもまだ有効成分が残っている可能性があります。捨てるときは接着面を内側にして半分に折り、子供や他の人が誤って貼ることのないように捨てましょう。

処方された薬は医師に指示された用法用量、注意事項をしっかりと守って使用してください。特に全身作用のある貼り薬では使い方を誤ると十分な効果が得られないばかりか思わぬ副作用が出ることもあります。分からないことがあれば医師または薬剤師に遠慮なく相談して下さい。

